

からこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることでしょう。それぞれの立場において、この難局で法灯(ほうとう)や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいてくださるお念仏の心をいよいよいただき、共に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいにつとめを果たしてまいりましょう。

2020(令和2)年4月14日 浄土真宗本願寺派総長 石上 智康

### ●住職の今年度の予定(再掲)

以前にも書きましたが、今年4月から、毎週金曜日に龍谷大学(瀬田)の講義を担当しております。午前11時からの講義ですが、コロナウイルスの影響でインターネットを介してのオンライン講義になりました。従いまして、いままで通り、お参りに伺うことが出来ますので、宜しくお願い致します。ただし、9月以降は教室授業になる可能性もあります。

### ◎今後の西要寺行事予定◎

#### 【定例法座】

4月22日(水) 休止

#### 【永代経法要】

5月→7月22日23日に延期

#### 【定例法座】

6月22日(月) 午後2時より4時頃まで

講師：佐々木 義英 師(浄土真宗本願寺派総合研究所 室長)

※なお、周辺の状況(コロナ)により中止する可能性もあります。

6月上旬頃に判断します。

#### 【永代経法要】

7月22日(水)～23日(木・祝)

午後2時より午後4時頃(予定)まで

講師：谷川 弘顕 師(本願寺派布教使、神戸 高松寺 前住職)

場所：西要寺本堂(椅子席)

# 西要寺だより

第96号 令和2年5月8日



感染者数

死亡者数

その数字の向こうには

一人一人のいのちがある



今私にできること

私のいのちを大切にすること

身近な人のいのちを大切にすること

不安にさいなまれた時は

立ち止まって周りを見てみよう

高速で走り続けていたときには

見えなかったものが見えるかもしれない

浄土真宗本願寺派総合研究所の研究員の後輩が、今の世の中のことを思い考えた言葉です。テレビをつけるとコロナ、新聞でもコロナ…。もうコロナはいらぬ。気をつけなあかんことわかってるわー。ただ少し物事を考える期間でもあるかな、と思っています。

私は4月10日を最後に京都の研究所には行っておりません。緊急事態宣言が出たこともあり、自宅待機をしています。といっても自宅で仕事をしています。自宅待機は5月15日までとなっていますが、緊急事態宣言が延長されると自宅待機も延びるかもしれません。自宅では、いつものようにお寺の仕事をしたり、研究所の仕事、龍谷大学の講義(オンライン講義)の準備などを行っているわけですが、京都に行かない、弓道もできない(体育館が臨時休館)ということもあって、非常に運動不足になってしまっています。そこでたまに高校生の次女と歩きにいくのです。すると、いままで見えなかったことが見えてきます。立ち止まってゆっくりと見回すといろいろな発見があります。

また、研究所の後輩たちとオンラインで会話したりもしています(飲み会ですが)。会議もオンラインで参加しました。いままでしたことがなかったことをしています。いろいろと新たな発見がありました。